

No.	22-3030	
研究課題名	新規組換ネコヘルペスウイルス作製系の樹立とこれを用いた侵入機構の解析	
研究代表者	藤井 ひかる（岡山理科大学・助教）	
研究組織	受入教員	川口 寧（東京大学医科学研究所・教授）
	分担者	川口 寧（ウイルス病態制御分野・教授）
	分担者	加藤 哲久（ウイルス病態制御分野・准教授）
	分担者	藤井 ひかる（岡山理科大学・獣医学部・助教）

東京大学医科学研究所国際共同利用・共同研究拠点事業
共同研究報告書（年次終了・研究完了）【国内】

共同研究報告（年次終了）

ネコヘルペスウイルス1型（FeHV-1）は成ネコの約70%が抗体を保有しており、ワクチンにより重症化は防ぐことはできるものの、感染や再活性化を完全に防ぐことはできない。より良いワクチンの開発にはFeHV-1の増殖機構や病態発現機構の解析が求められ、そのためには組換えウイルス作製系は欠かすことができない。既存の組換えネコヘルペスウイルス1型（FeHV-1）作製系は、ウイルスゲノムの一部が欠損している又はウイルスゲノム内にネコ由来と推察される配列（約2.5kbp）を含むものであり、FeHV-1ゲノムのみを全長で保持する系は存在しない。そこで、FeHV-1全長ゲノムを有し、且つ外来遺伝子を極力含まない、組換えFeHV-1作製系の作製を目指し、以下の研究を行った。

1) FeHV-1ゲノム上の外来遺伝子挿入部位の検討

既存のFeHV-1 Δ TK BAC（FeHV-1 TK遺伝子領域にEGFP-BAC配列を有する）組換え系を利用して、至適外来遺伝子部位の検討を行った。

2) FeHV-1 BACの作製

挿入部位の上流及び下流の塩基配列を付加したEGFP-BACをトランスフェクションした細胞へFeHV-1を感染させ、相同性組換えによりFeHV-1ゲノムにEGFP-BACを挿入することでFeHV-1 BACの作製を試みている。